

山口県の化学工場でプラント爆発・炎上 1人死亡、17人重軽傷

(04/22 12:07 テレビ新広島)

山口・和木町の化学工場で22日未明、プラントが爆発して炎上し、作業員1人が死亡、11人が重軽傷を負った。また、この爆発で、周辺の住宅などの窓ガラスが割れるなどし、住民6人がけがをしている。

事故があった山口・和木町の三井化学岩国大竹工場の会社事務所は、爆発があったプラントからおよそ350メートル離れているが、爆発の衝撃で、ドアガラスが粉々になっている。

22日午前2時15分ごろ、タイヤの接着剤を作るプラントが爆発した。

会社側によると、事故の前に機械トラブルが起き、プラントの停止作業をしていたところ、突然、爆発・炎上したという。

この事故で、作業員の砂川翔太さん(22)が死亡、工場内の作業員11人が重軽傷を負ったほか、周辺の住民6人が、割れた窓ガラスを踏むなどし、けがをしたという。

火の勢いは収まりつつあるが、午前8時すぎには、同じプラントのタンクが爆発するなど、周辺住民は不安を募らせている。

近所の人には「2階で寝てたら、ドーンという大きな音がしてね。一瞬ね、何があったかわからなかった」と話した。

顔などに軽傷を負った母子は「ガラスが降ってきたので、息子を守らないといけないから、とっさに布団をかぶせて、ちょっと収まるまで様子を見て」と話した。

また、この工場には、放射性物質である「劣化ウラン」が入ったドラム缶をおよそ3,400本保管しているということだが、異常はなく、被害もなかったという。

<http://www.fnn-news.com/news/headlines/articles/CONN00221770.html>

ぼぼんぶぐにゃんラジオ

放射能は原発ばかりではない。劣化ウランの情報公開が必要です。

(音声のみです)

http://www.youtube.com/watch?v=RwCqxUo_ByA&feature=player_detailpage

三井化学岩国大竹工場爆発事故について(速報)

2012年4月22日、三井化学の爆発事故については工場内にウランがあったということで、近くに住んでいる人に不安を与えている。新聞やネットを中心に報道されていることから推定してみた。

工場内にウランがあったとすると、ウランは呼吸で肺に入ると危険だが、胃に入る分にはほとんど影響がない。だからハッキリわかるまで数日、マスクをしておいた方が良い。まだその点の発表はない。だから少し気をつけた方が良い。

爆発の状態から直ちに逃げる必要はないと思われるが、風下（当時の動画から見ると、海から垂直に近い形で煙が内陸に向かっている。距離は3キロぐらいまでの注意と考えられる。

もともと、化学工場にあるウランは触媒として使われていたか、使っているもので、おそらく形はシリカゲルのようなものに付着（担持という）したもので微粒子である。マスクで止まる。

大切なことは、ウランの拡散状況を一刻も早く発表することで、工場の原因追及より住民の安全の方を優先し、報道もそちらに重点を置く方が良い。会社の発表と報道を見ると、毒物の拡散より、事故原因、被害状況に重点が置かれている。

自衛策としては、風下3キロぐらいの範囲で、あまり粉を吸わないことが大切と思う。

追記：ウランが飛散して人体に影響があるレベルであっても、放射線を測定しても出てきません。ウランの放射線は弱いし、アルファ線なので測定はなかなか困難です。ただし、微量でも肺に入ると問題が起きます。だから「線量率は低かった」というのは「安全」とは無関係です。外部被曝はありません。だからマスクさえすれば大丈夫といえます。

「tdyno.67-(3:34).mp3」をダウンロード

（平成24年4月23日）武田邦彦

三井化学で爆発 1人死亡<動画あり>

（中国新聞 2012.04.23）

22日午前2時15分ごろ、山口県和木町の三井化学岩国大竹工場で、タイヤの接着剤の原料などを製造するレゾルシンプラントが爆発し、火災が起きた。現場付近で同社社員の砂川翔太さん(22)＝和木町＝が遺体で発見され、コンビナート内で作業員ら計11人が重軽傷を負った。和木町、岩国市、大竹市の住民11人も爆風で割れた窓ガラスで切り傷を負うなどした。

岩国地区消防組合などがプラントへの放水を続け、火災は発生から15時間後の同日午後5時15分によろやく鎮圧した。同消防組合などによると、有毒ガスは確認されなかった。

山口県警捜査1課と岩国署は23日、業務上過失致死傷の疑いで工場の家宅捜索に乗り出す方針。

三井化学などによると、爆発したプラントで蒸気設備のトラブルがあり、21日午後11時半ごろから停止に向けて作業をしていた。亡くなった砂川さんも爆発現場付近で作業をしていたとみられる。

同社はプラントの酸化反応タンクが激しく損傷していることを確認。酸化工程で生成される過酸化物が何らかの過剰反応を起こして爆発につながった可能性もあるとしている。

火災はプラントに隣接する設備や配管などにも延焼。同日午前8時5分ごろにも、同じプラントのタンクが再び爆発した。同社は近く社内に事故調査委員会を設置する。

同社によると、工場の敷地内には触媒に使う放射性物質の劣化ウランが200リットルドラム缶で3,379本貯蔵されていた。貯蔵する倉庫の窓ガラスが一部割れたが、同社は「ドラム缶に影響はなく、測定した放射線量も爆発前と変わらない」としている。

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201204230082.html>

放射能漏れの心配無し～三井化学岩国工場爆発事故

(NetIB Newse 2012年4月23日 17:00)

岩国工場の爆発で影響が懸念されていた放射性廃棄物の管理について、同社は事故の影響が無いことを明らかにした。

同工場内に保管されているのは、かつて触媒として用いられていた放射性物質や当時のプラントで使用されていたパイプ類など。ドラム缶詰にされ、数百メートル離れた別棟で厳重に保管されていたとはいえ、事故の影響を懸念する声が挙がっていた。

同社によると、今回の事故では、問題となる建屋の窓ガラスが割れる被害が生じたものの、視認する限りで他の被害は生じていないとのこと。計測値も従来と同等の値を示していることから、同社としては放射能漏れなどの影響は無いと判断しているという。【田口 芳州】

http://www.data-max.co.jp/2012/04/23/post_16445_dm1913_1.html

防災メール9時間後住民「広報来ない」不満

(2012年4月24日 読売新聞)

爆発が起きたプラント周辺では金属片や消火用ホースなどが散乱していた＝秋月正樹撮影

住民に不安と被害を与えた三井化学岩国大竹工場（和木町）の爆発火災事故は、非常時の行政の

対応にも課題を残した。和木町では情報が伝わらず住民が心配を募らせ、岩国市では市民に登録を勧めている「防災メール」の活用が遅れた。両市町の担当課は事故を教訓に広報体制の見直しを示唆した。

和木町は爆発から35分後の22日午前2時50分、防災計画に基づき「石油コンビナート等現地防災本部」を設置し、職員らが情報収集と広報にあたった。町企画総務課によると、和木地区（約2,000世帯）で午前3時半以降、3回にわたり、防災無線で爆発事故の発生や有毒ガスは出ていないことを広報したという。

しかし、事故後の町内では「役場の対応が遅く、情報が全然来ない」（42歳女性）、「役場の放送が何を言っているか聞き取れなかった」（40歳主婦）といった苦情の声が上がった。

同課は「最低限のことはできたと思うが、（住民の不満を受け）広報体制の見直しを検討したい」と話す。

岩国市では、午前3時頃から岩国署や市消防団が事故現場に近い同市装束、新港町などを巡回し、屋内待機を呼びかけたが、市が防災メールを発信したのは、事故発生から約9時間後の午前11時10分だった。

市危機管理課は「（装束、新港町の）限られた地域には、警察、消防による広報がより効果的と判断した」と説明したが、「情報を速やかにメールで発信すべきだった。今後は積極的に活用したい」としている。



一方、県防災危機管理課は23日、三井化学岩国大竹工場と同様に高压ガスを使用している県内の375事業所に安全対策の徹底を求める文書を送った。今月中には、コンビナート施設に関連する県内の42事業所を対象に、緊急の保安責任者会議を開く予定という。

二井知事は報道陣の取材に対し、「大変重大な事故と受け止めている。会社で原因究明をしてもらうとともに、県としても他の機関と連携して再発防止策を講じていきたい」と語った。

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/yamaguchi/news/20120424-0YT8T00094.htm>

10トン鉄片400メートル飛ぶ、三井化学爆発

（2012年4月24日 読売新聞）

プラントから約400メートル離れた場所で見つかった鉄片（23日夕）＝矢野恵祐撮影

山口県和木町の三井化学岩国大竹工場で22日未明に爆発、火災が発生し、1人が死亡、22人が重

軽傷を負った事故で、タンクの一部とみられる鉄片が約 400 メートル先まで吹き飛ばされていたことが 23 日わかった。ガラスが割れるなどの被害も山口、広島両県の 2 市 1 町で 475 件に拡大。県警は同日、業務上過失致死傷容疑で工場事務所などを捜索した。24 日には現場検証を行う。

火災は発生から約 36 時間半後の 23 日午後 2 時 31 分に鎮火した。

鉄片は和木町と広島県大竹市の間の小瀬川河口で見つかった。直径 3～4 メートル、重さは約 10 トンとみられる。同工場は「今回の爆発で吹き飛んだものだと思う。どの部分の設備か調べたい」としている。

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20120424-OYS1T00242.htm?from=popin>